

栃木で国体冬季大会を開催 前年に続き無観客で感染対策を徹底

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」冬季大会のスケート・アイスホッケー競技会が1月24日から30日までの7日間、栃木県の日光市で行われた。新型コロナウイルスの感染対策のため、前年に続いて無観客で開催された。スキー競技会は秋田県の鹿角市で2月17日から20日まで、本大会は栃木県内を舞台に10月1日から11日まで行われる予定。

フィギュアスケートの成年女子は福岡の竹野比奈選手がショートプログラム(SP)、フリーとともに1位となった。成年男子は愛知の山本草太選手が圧倒的な強さで1



開始式の選手宣誓の様子(代表撮影)



フィギュア少年女子SPで演技する千葉選手



ショートトラック少年男子1000メートル予選で滑走する選手たち



フィギュア少年男子SPで演技する中村選手

位。少年男子は愛知・中京大京高1年の中村俊介選手、少年女子は宮城・東北高1年の千葉百音選手がそれぞれ個人1位となった。

スピードスケートは、少年男子で長野勢が全6種目で優勝する活躍。中でも小海高3年の井出雄斗選手が1000、1500メートルの2冠に輝いた。

ショートトラックの成年男子1000メートルでは、開催地の栃木の斎藤選手が優勝し、競技生活の最後を飾った。少年男子では長野・地球環境高3年の林康生選手が500、1000メートルの2冠だった。

アイスホッケーは、少年男子の北海道が埼玉をプレーオフの末に4-3で下して19連覇。成年男子も北海道が東京に6-5で競り勝ち、この種目で国体史上初の6連覇を果たした。

大会の様子は、国体チャンネル(<https://japangamestv.jp/japan-sports.or.jp>)のライブ配信アーカイブで見ることができる。

伊藤選手と戸上選手と早田選手が2冠 卓球全日本選手権

卓球の全日本選手権は1月24日から30日まで東京体育館で開催され、伊藤美誠選手と戸上隼輔選手と早田ひな選手が、それぞれ2冠を果たした。伊藤選手は女子シングルス決勝で早田選手を4-1で下し、3年ぶり3度目の優勝。伊藤選手は早田選手と組んだ女子ダブルスでも優勝し、ダブルスの最多連続優勝に並ぶ4連覇を達成した。勝利の後、伊藤選手は「誰にも負けたくない。今の目標は大会に出て勝つこと。勝ちまくること」と言い切った。



女子シングルス決勝、プレーする伊藤選手



男子シングルスで優勝した戸上選手

戸上選手は男子シングルス決勝で松平健太選手を4-2で破って初優勝。戸上選手は、宇田幸矢選手と組んだ男子ダブルス決勝でも張本智和選手、森園政崇選手のペアに逆転勝ちした。

戸上選手は「1球1球集中して自分のプレーを出せば、結果につながると思っていた。自分が日本を背負う覚悟を持っている」と話した。

混合ダブルスは、張本選手と早田選手のペアが初優勝。早田選手はダブルス2種目を制した。

北京五輪が開幕

第24回冬季五輪が4日、中国の北京市で開幕した。同日夜、同市の国家体育場で開会式が行われたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため一部招待客を除いて無観客で実施された。同ウィルスの影響で1年延期された昨年夏の東京五輪から、わずかに半年で開催される雪と氷の祭典。20日までの17日間、7競技、史上最多109種目でメダルを競う。

2008年夏季大会の開催地だった北京は、史上初めて夏と冬の両方の五輪を開催する。

日本勢金メダル第1号は小林陵侑選手



金メダルを獲得した小林選手の2回目の飛躍

大会には91の国と地域から約2900人の選手が出場し、日本からは海外開催の冬季五輪で最多となる124選手で編成(スノーボードの選手1人がけがで欠場)した。

6日、ノルディックスキー・ジャンプの男子ノーマルヒルで、25歳の小林陵侑選手が1回目に104・5メートル、2回目に99・5メートルを飛んで日本勢第1号の金メダルに輝いた。「2本ともいいジャンプをそろえられたのでうれしい。この金メダルという結果をうれしく思う」と笑顔で話した。

日本勢のメダル第1号は、5日のフリースタイルスキー・男子モーグルで銅メダルを獲得した24歳の堀島行真選手だった。



ソチ五輪決勝の平野選手の演技(EPA=時事)

平野選手は1回目に90・75点をマークしてトップに立ったが、2回目に逆転され、金メダルには届かなかった。しかし、「楽しかった。歴史に残る結果を出せて、今後の自信にもつながる」と話した。23歳になった今回の北京五輪では、縦に3回転する大技「トリプルコーク1440」で夢の金メダルに挑む。平野選手は昨年夏の東京五輪でスケートボードの代表として出場して予選14位に終わり、上位8人による決勝には進めなかった。それからわずか半年足らず。平野選手は1月8日のワールドカップ(W杯)で優勝。17年12月以来、4シーズンぶりの勝利を手にした。15日のW杯も制して連勝した。

北京五輪では「トリプルコーク1440」の成否が勝負を分けるとされる。「自分にとって特別なオリンピックになる。大きなチャレンジだと思う。東京五輪ではそれまでの冬季五輪と違う景色を見て、これまでにない経験ができた。そのことが4年前とはひと味違う平野選手にしているように思う。誰と戦うというより、自分がどこまでいけるのかという挑戦」と話した。最難関の技に挑むことに迷いはない。



ソチ五輪の表彰式で、銀メダルを手にする平野選手(右)

過去の名シーンを振り返ります

2014年2月

あの時の記憶

スポーツアーカイブ

平野選手、ソチで最年少メダリスト